

公民館
通信

No.320
2025.7発行

たのしいまち

編集：たのしいまち編集委員

発行：多摩市立永山公民館 ☎206-0025 多摩市永山 1-5 ☎042(337)6661 FAX042(337)6003
多摩市立関戸公民館 ☎206-0011 多摩市関戸 4-72 ☎042(374)9711 FAX042(339)0491

ひと♡ネットワーク

心とご縁をむすぶ
芽が出る



むすび芽



むすび芽 代表 石本 寛子 さん

「むすび芽」は「親子カフェおむすび」から名称を変え、5月から再出発した。「目」ではなく「芽」。“親子の心をつなぐ・地域の縁を結ぶ・自分の芽が出る”そんな思いを込める。諏訪商店街で開催する「子どもマルシェ」、季節ごとの「デジたねみらいラボ」「アナログゲーム発達会」の3つが活動の柱だ。

5月の「すわ新緑まつり」とのコラボマルシェでは、アクセサリなど手作りグッズの店やガチャ屋さん、3Dプリンターで作った電車やプログラミングロボットなど、子ども達の「好き」と「得意」が並ぶ。着ぐるみたちも登場して、子供も大人も笑顔いっぱい！『凹凸さんも 障害あってもなくても 親も子もそれぞれに じぶんの幸せと繋がろう』—その思いで活動を続けてきただけに、その光景が本当に嬉しい。

生まれは佐渡ヶ島。結婚後多摩市民となった。10年ほど前は、子育てに疲れ果てていた。一見分からない偏りの強さ、成長が他とは違う息子。

余裕を失い、イライラや不安が募った。夫からは責められ、夫の特性にも孤独に悩んだ。公民館主催「Nobody's Perfect プログラム」を見つけたのは、そんな時。藁にもすがる思いで参加した。肩の荷を下ろし、仲間と自己表現を考え学ぶ時間。「救われた」と、当時を振り返る。

自分の良さに気づいて元気が戻り、周りに頼ることができると、わが子の愛おしさを実感。湧き上がるように2018年「親子カフェおむすび」を仲間と立ち上げた。「トンネルの中にいた時にほしかった、人と繋がれる場を作りたかった」から。さらに、2020年開校フリースクール「イェナスクールゆめまる」にも携わった。“自分もマル、相手もマル”を合言葉に現在、個性豊かな小4～中3までの15人程が利用。「スクールの子達の手作りです」とイヤリングが光る。

4歳～中3の4児の母となった今は、夫も積極的に協力、理解へ。息子さんは多様な学び場を選択し、その中でミニ先生を務めているようだ。

あなたのわたしの昭和100年募集



昭和100年ミニプロジェクト開催します！

今年は昭和100年。平成、令和含めて「昭和元年から100年目」の年です。一世紀ですね～!!
キリの良い年でもあり、各所で100年を振り返る取り組みが行われています。

そこで公民館通信「たのしいまち」でも、「昭和100年ミニプロジェクト」と題して、記念プロジェクトを開催します。読者の皆様にご参加いただき、ともに楽しい誌面を作りたいと考え、以下内容で募集いたします。ふるってご応募ください。

「昭和」と言えば「コレ！」を教えてください

親子三代昭和の生まれ、という方もいらっしゃるでしょうか。

「昭和」と言えば「コレだ！」という印象深い出来事、歌や映画や小説、歌手、俳優、選手などなど、あなたの「昭和100年はコレ！」を教えてください。

昭和なんて知らないよ…そうおっしゃる若い方も、「昭和100年のイメージはコレ！」をぜひ！

私たちの未来につながる昭和100年とこれからの「夢」

一つ一つの出来事を積み重ねて今があり、次の一步を踏み固めてさらなるステップにつながります。それこそが、これからもずっと未来につながる100年の軌跡。公民館通信ならではの視点で、「昭和100年」から未来をみつめたい。

そこで、今回の「コレ！」や「イメージはコレ！」を膨らませ、これからの「夢」を教えてください。

あなたの夢、家族の夢、多摩市の夢、日本の夢、地球の夢…。ともに夢を見ましょう！

<アンケートについて>

- ・募集方法：永山・関戸公民館窓口のアンケート用紙。または、右 QR コードから。
- ・募集期間：12月末日まで。



- ・募集結果：皆様からお寄せいただいた声をまとめ、この誌面に掲載いたします。
市民の皆様にも愛される公民館づくりのヒントにと考えています。どうぞお楽しみに！

《昭和はこんな時代でした：参考》

思い起こせば「激動」と言われる昭和。幕を開けたのは関東大震災復興半ばの時期でした。第2次世界大戦、原爆投下と敗戦。復興とそれに続く高度経済成長。東京オリンピック、大阪万博、札幌冬季オリンピックは夢の祭典でした。パブル崩壊1991年。その後続く「失われた30年」。2020年コロナ世界的大流行による緊急事態宣言。

今、多くの物資を輸入に頼っている日本。物価の高騰に日々の生活が逼迫している中、当時の物価がどんな様子だったのか少し調べてみました。1970年の大阪万博時代は。。。こんな価格でした。

- ・郵便料金7円(はがき)15円(手紙)、米1410円(10キロ)、タバコ80円(ハイライト)
- ・銭湯38円(大人)30円(子ども)、タクシー130円(初乗り2キロ)、新聞代750円(1ヵ月)

募集例：私の昭和100年はコレ！

☆私の好きな昭和は“山口百恵”さんです。

思い出します、あの引退ステージ。。。そして映画「絶唱」。昭和100年に思いを馳せる、とてもいい歌・映画だと思います。「さよならの向こう側」聞きたいです！

☆昭和の作家と言えば「三島由紀夫！」。2025年はちょうど生誕100年です！！

活動の芽

【参考】ジャンル紹介

文芸・語学・書道
 演劇・音楽・合唱・楽器
 美術・陶芸・工芸
 手芸・生け花・料理
 舞踊・映像・写真
 (自然観察・野外活動)
 市民活動・福祉
 ダンス・体操・(武道)
 その他スポーツ
 その他文化活動

※ () は現在サークル紹介カードなし



公民館では「公民館サークル紹介カード」を掲示しています。
 見学・体験あり。メンバーを募集している団体は現在 60 ほど。
 何かやってみみたい方、ぜひご覧ください。掲示ご希望団体さん、公民館窓口へお声かけください！

公民館通信では、不定期で公民館登録団体紹介の記事を掲載します。
 希望する団体は公民館まで。



みちくさ

公民館のちらし台では、市内登録団体の催し、公民館で開催される講座やコンサート、市内・近隣市のイベントのちらしなど、様々な情報を手にすることができます。
 用事がなくても、涼みに、お気軽にお立ち寄りください。



文庫連会員がお勧めする本

『真実の口』 いたうみく著 / 講談社 2024年



中3の湊・七海・律希は、小雪の降るなか祠の前にしゃがんでいる小さな女の子を見つけたが、女の子は何を聞いても名前以外答えない。

三人は女の子を交番へ連れて行くが、迎えに来た母親の態度に違和感を覚えた。幼児の人権とは…？正義とは…？

読後いつまでも心に残る本です。

多摩市文庫連絡協議会 なかよし文庫 鈴木百合子

『心をひらいて、音をかんじて』 シannon・ストッカー 文 /



デヴォン・ホルズワース 絵 / 中野怜奈 訳 / 光村教育図書 2023年

音楽好きのエヴェリンは10歳を過ぎてから、重度の難聴となりましたが、補聴器は使わず演奏するときは、はだしになって床のふるえを感じとりながら打楽器の演奏をします。耳の聞こえる人とは違ったやり方だが、エヴェリンは「耳がきこえなくなってから、もっと色々な音を豊かに感じるできるようになった。心をひらけば、だれもがもっと豊かに音を感じられるのだ」と言っています。

困難を乗り越え、自分らしく生きるエヴェリン・グレニーの半生を色彩豊かに描いた伝記です。 多摩市文庫連絡協議会 なかよし文庫 鈴木百合子

コラム え・と・せ・と・ら

万博へGO! —永山の楽ちゃん—

ついに開幕♥
梅田から地下鉄2つ
夢洲駅へ35分!
ゆめしま

日本館 万博のゴミも循環
エネルギーに変換
イヤザが持ち帰った
サンプルや世界
最大級の火星の石も!!

アメリカ 入口両側に
巨大スクリーン!
星の子スパークが案内役
館内はまるで宇宙船

中国 目の前の壺が
ガラスで
しおりをかざすと
スクリーン上に
街が1つずつ出現!

大阪ハイスパ 25年後の
自分♡ (要予約!)
洗濯機! ステキな女性が
洗われてゆく~

ガンダム 完全
予約制!
近未来
体験

大屋根リノグ!
ただの木枠ではなかった。
ベンチあり。給水機あり。
雨をしのげる。床。吸水@
柱に番号。どこ行くにも目印
上からの眺め。最高!! 君もその目で見るべし!

JICA青年海外協力隊員として太平洋に浮かぶ小さな島国・パラオに派遣され小学校教員として活動すること約2年。ついに任期を終え、3月に日本へ帰国した。「発展途上国の子ども達のために何かできることを」との思いでパラオへ来た…はずであったが、私自身がパラオで学んだことの方が断然多かった。

釣り糸だけ(釣り竿無し)で魚を釣ったり、マングローブ林で足を使って貝をとったり、高いココナツの木に登って葉っぱを採取したり、野生のブタを狩りにジャングルへ入ったり…。パラオ人が羨む「4年制大学」を卒業している日本人の私だが、学校では学んでこなかったたくさんの知恵をパラオで教えてもらった。潮の満ち引きや空模様から天気予測をすることも、暑い中でも腐らせない食べ物の保存方法も、教科書からは学べないけれど、パラオ人には代々伝わってきた知恵なのだ。

そして、人口2万人に満たないパラオだからこそ、「ファミリー」をたくさん感じさせてもらった。道を歩いているときも、何かを探して困っているときも、よそ者の外国人であるはずの私に、いつでも声をたくさんかけてくれた。どこを歩いても知り合いだらけ。パラオへ行く前はそんな閉鎖空間で暮らすのは辛いのではないかと思ったが、今となってはその居心地のよさが恋しい。

日本統治時代の教育やインフラ整備に感謝し、戦後80年経った今でも、日本への「片思い」をしているパラオ。国中で日本国旗が見え、たくさんの日本語がパラオ語に残っており、日本の存在を知らないパラオ人はいない。果たして我々日本人はどうだろうか…? より多くの日本人にパラオを知ってほしいと心から願っている。



約2年間に渡るご愛読、ありがとうございました。
(ニーチェ)

編集後記



☆万博へ。バケツ返しのだしや降り。駅から見えてるゲートくぐるのに40分。当日予約端末機は1時間並んでも予約ムリ。よし、アメリカ館に2時間半並び。日本館にも。中国やアラビア圏が面白い。大屋根リングが素材も機能も素晴らしいこと!
☆時々感じる夏の日差し!ここは沖縄?夏休み!
ココロオドル。

☆猛暑の中、我が家の子供たち(猫)のために四六時中エアコン稼働。電気代も気になりつつ、日々一緒にいる親も涼んで一緒にゴロゴロ愛がりにしている親も涼んで一緒にゴロゴロしてます…。

☆二刀流復活ドジャース大谷!

(月) (は)



→カラ版
過去号は
こちらから